TOPICS 1

トピックス…①

ドイツ農業における女性の役割と生活状況

ドイツの農業においては、女性が多くの役割を果たしている。彼女たちは、農場経営主の母親または配偶者、軽作業の未熟練労働者、家畜の管理者、大規模農業法人の事務係、独立した農場の経営主などである。しかし、農場、集落、地方自治体、さらには農村地域全体での女性の役割は、未だ過小評価されていることがよくあるという。これまでの農業統計調査では、農業における女性の役割が明確に記載されないことが多く、農業に関連する仕事や活動が性別で評価されることもなかった。

１．農業従事者の３分の１以上が女性

ドイツ食料農業省が実施した「2023年農業構造調査」によると、ドイツでは約876,000人が255,000の農場で働いており、この農業従事者の約34％が女性であった。役割別では、家族経営農場の従事者と農業法人の正社員に占める女性の割合はそれぞれ32％、季節農業従事者に占める女性の割合はやや多くて44％、対照的に農場経営主のうち女性が占める割合はわずか11％であった。

ちなみに、2017年のEurostat（欧州委員会統計局）の統計データによると、オランダでは農場経営主の5％、デンマークでは８％が女性であった。オーストリア、イタリア、エストニア、ルーマニアでは、農場の約3分の1が女性によって経営されていた。女性の農場経営主の割合が特に高いのは、リトアニア（47％）とラトビア（45％）であった。

２．教育水準が高い女性農業従事者

ドイツ農業における実践的な職業研修に関する統計によると、研修生の男女比はほぼ安定して推移している。2022年における農業専門職の研修生の25％弱は女性であり、過去15年間に亘り、女性の占める割合は22～24％と比較的一定に推移している。

また、農学系学生に占める女性の割合は比較的高い。例えば、2022年度における農業科学分野あるいは農業分野の学生15,100人のうち女性の占める割合は約48％、園芸分野では約46％、林業・林産分野では37％であった。

Agri Experts社は2019年、農業に従事する女性をテーマとする調査を実施した。同調査に参加した514人の女性は、全体的に教育水準が高かった。彼女たちの68％は職業研修を修了しており、そのうち29％は農業専攻、22％は商業専攻であった。また、彼女たちの22％は農業大学で学んだ経験がある。

調査対象となった女性の３分の１は週に40時間以上、17％は週に30～40時間、32％は週に20時間未満、農場で働いていると回答している。主な仕事は、安全な仕事と動物の飼育管理である。これは回答者のほぼ３分の２が回答しており、次いで経理および事務処理が62％であった（複数回答）。現場での作業と回答した女性は４分の１未満で、宣伝活動は14％、直売活動は12％であった。

なお、同調査によると、女性の半数がパートナーと一緒に農場経営の意思決定を行うが、約30％の女性は意思決定に関与しているものの、パートナーが最終決定権を持っている。また、農業に従事している女性の10人に１人は、農場経営における意思決定にはまったく関与していないと述べている。

３．農場で働く女性の生活状況

農場で働く女性の多様な生活状況に関する調査は、ドイツ農村女性協会の協力を得て、2023年２月まで続けられたテューネン経営研究所とゲッティンゲン大学による「農場における女性の生活状況に関する研究プロジェクト」の一環として実施された。この調査では、地域差、経営形態や生活スタイルの違いも考慮されている。調査対象は、女性の農場経営主や管理者、家族経営農場の従事者、雇用農業従事者、かつて農業従事者だった高齢者などである。

このプロジェクトの目的は、農業における女性の生活状況と将来展望、そして農村地域における社会的結束に関する彼女たちの重要性を詳しく調べることであった。プロジェクトの一環として、慣行的なインタビューとワークショップが行われ、女性たちに自身が関心を持っている問題について尋ねた。さらに、オンライン調査と約50の定性的な聞き取り調査が実施された。

（１）女性による農場継承は男性より難しい

このプロジェクトでは、科学者のジャンナ・ルイサ・パイパー氏とスザンヌ・パデル氏によって、農場の経営継承が男性よりも女性の方が難しいことが明らかにされた。農場継承の構造は、今日でも家父長制である。男性の農場継承の伝統がいまだに守られていることが多いため、女性が農場や土地を相続する可能性はほとんどない。女性は多くの場合、農業を自ら起業するか、家族以外の農場を継承するか、結婚することによって農場経営に参入する。

プロジェクトの一環としてのインタビューやワークショップにおいて、農場を継承した女性たちは、兄弟の病気や農業への関心の欠如などだけが農場を継承できる原因だったと報告している。しかし、意外なことに、農場での農法、販売方法、または経営方針の変革者は女性であることが多いという。

なお、既婚女性や女性の経営パートナーは、自分自身が一部の事業部門または事業全体の共同経営者であると思い込んでいることは驚くべき状況である。しかし、これは紙面による契約に基づくものでないため、彼女たちが別居、離婚、または相続が発生した場合、農場の所有権を持たないため、しばしば深刻な結果をもたらしている。

（２）女性農業従事者の将来不安

インタビューやグループディスカッションでは、将来についての懸念も取り上げられた。多くの女性は、農場の環境、つまり彼女たちの労働環境や生活環境も、絶えず変化する農業政策的枠組み条件と農業に対する社会的要求の増加によって脅かされていると考えている。彼女らは、しばしば農場の会計を担当しているため、農場の収益性について正確な情報を持っているからである。

このような状況の中、前述のパイパー氏とパデル氏は、「農場で生活しているが、農業以外で働いている女性の精神状態は、はるかに安定していると感じることがある」と報告している。農業以外の専門的な仕事は、農場でのストレスの多い日常生活をリフレッシュする機会を与えるからであるという。